

## 2015 年度大学コンソーシアムあきた共同研究の報告書

【秋田県の地域活性化における、観光資源としての芸術（地域民族芸能・アート・デザイン・文学等）の活用並びに、秋田総合ブランドの構築に向けた調査研究】

### 共同研究チーム

国際教養大学	勝又美智雄教授<国際化・観光資源>
秋田県立大学	高橋秀晴教授<近代文学>
公立美術大学	島屋純晴教授<現代美術・アート> ◎2015 年度プロジェクト代表
公立美術大学	今中隆介教授<プロダクト・空間デザイン>
公立美術大学	長沢桂一准教授<現代美術・アート>
公立美術大学	大谷有花准教授<現代美術・アート>

\* 研究期間：2015 年 8 月～2016 年 2 月

### \* 研究のポイント

- (1) 2014 年度までの長期に渡る研究成果を踏まえた、活性化の具体的な方向性の研究・調査・提言。
- (2) これまでの秋田市の市街地活性化研究内容を踏まえ、秋田県内及び北東北各県を視野に入れた広域において、アート・文学等文化芸術を効果的に活用し、交流人口拡大に繋げるための観光戦略と地域の活性化の調査研究。
- (3) 調査研究成果を踏まえた、秋田県における交流人口拡大のための実践的事業のプラン作成、実施方法の研究、その結果を実現するための事業実施。

### \* 研究の要約

：本研究は 2008 年 10 月～2011 年 3 月に実施した、4A プロジェクト『秋田県の活性化のための調査研究 2—市街地の賑わい創出、内陸軸観光資源、国際観光資源の視点から—』を起点に秋田市中心市街地の活性化に向けた調査研究を継続しながら、より広域の秋田県を対象とする。2011～2014 年度は、これまでの秋田市中心市街地の活性化における問題点・失敗の原因について調査研究し、包括的な提言を実施してきた。本年度は公立美術大学・島屋純晴<現代美術・アート>が継続的に行なっているアート・文学等、文化芸術を活用した先進事例の調査・研究を踏まえ、より広域の秋田県内各市町村を対象に具体的な提言及び、実践研究を行うものである。

## ＊2015年度・調査・研究の実施状況

### I. 今年度の調査研究の方針と方向性の確認、調整

3 大学研究者による先進事例の調査・研究・分析、及びこれまでの長期に及ぶ事例調査の取りまとめと、その調査研究結果に基づく秋田県内市町村の活性化事業の提言及び活性化事業の実践。

### II. 石川県、富山県の広域連携を含む観光事業、地域活性化の事例調査

金沢市に隣接する白山市の観光振興策、金沢市と白山市の広域連携、石川県能登地区、富山県高岡市など北陸新幹線開業以降の広域の現況調査と、観光振興策について多面的視野より調査研究を実施した。

石川県白山市は2005年2月、松任市、石川郡の美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1市2町5村が新設合併し誕生した街。名峰白山の麓に位置し、日本海にも面し、白山を挟んで富山県、岐阜県、福井県と隣接し大きな手取川が流れる。JR北陸線の他、北陸鉄道石川線（金沢野町-鶴来13.8km）があり、面積754.93km<sup>2</sup>、人口109,027人（2015年）の都市である。

一方、秋田県由利本荘市は、2005年3月に本荘市と由利郡の矢島町・岩城町・由利町・西目町・鳥海町東由利町・大内町の1市7町が合併し発足、名峰鳥海山の麓に位置し日本海に面する事、鳥海山を挟んで山形県と接し、子吉川が流れ、JR線の他、由利高原鉄道鳥海山ろく線（羽後本荘-矢島23.0km）があり、面積1,209.60km<sup>2</sup>、人口79,450人（2015年）の都市であり、白山市と共通点が多い。

誕生の歴史、山、川、海などの自然環境が豊かで、製造業が多く存在する点、また白山市では2015年3月に「全国まちづくりネットワーク協議会」の賛助会員・日本発酵文化協会の支援で全国発酵食品サミットが行われたこと、白山、手取川、肥妖な加賀平野そして日本海と、自然と文化に恵まれ、日本酒で初めて産地指定された「白山菊酒認証制度」をはじめ、「奇跡の発酵食品」とも称される「ふぐの卵巣の糠漬け」のほか、味噌、醤油、醸造酢、糰など様々な発酵食品が製造されており、秋田県由利本荘市と非常に似通った特徴を持っていることから白山市における観光行政、交流人口の確保などを調査対象とした。

なお白山市では現況・実地調査に加え、米林観光課長（北陸新幹線誘客対策室次長・国際交流室長兼務）木田文化振興課長、徳井産業部商工課長との面談により、行政としての施策面を聞き取り調査した。

また石川県能登地区・七尾市・穴水町、富山県高岡市では新幹線開業以降の現況調査、特に観光の為に2次アクセスとして利用させる、JR七尾線、のと鉄道、JR氷見線・城端線、IRいしかわ鉄道、あいの風とやま鉄道などを中心に、高岡市のまちづくりについても調査研究を行った。北陸新幹線の開業で賑わう金沢の活況にあわせるように広域の観光振興に様々な視点から取り組んでいる点は秋田県の観光振興と活性化の参考事例とすべき点も多く、今後様々な形で振興策実現のためのプラン策定に活用したい。

### III. 現代美術の現況調査による、地域活性化のための研究

秋田県では真に現代美術、現代デザインの実態を調査研究することが不可能なため、東京及び横浜で実施される現代アート・現代デザインの調査研究を行った。東京アートミーティングVI“TOKYO”-見えない都市を見せる、オノ・ヨーコ/私の窓から（東京都現代美術館）、建築家フランク・ゲーリー展（21\_21デザインサイト）、村上隆の五百羅漢図展（森美術館）、村上隆のスーパーフラットコレクション（横浜美術館）では東京オリンピックを控え激動する都市と、現代美術・建築を含むデザインの関係性・現状の動向等を研究し、現在秋田県内で進行中のプロジェクトの方向性と特徴付け等の検討資料を収集した。

同様に由利本荘市で進行中の、これまでの研究成果を活用した地域の活性化プロジェクトで実現させる予定のアクティビティー・【スラックライン】【ハンドバイク】のデザイン、実製品の調査、導入に向けた事例調査等を実施。観光を含む交流人口の拡大と、地域の人たちの活動拡大に向けた実りある調査研究を実施した。

## ＊2015年度・調査・研究の実践と報告

＊昨年度までは、本学の研究紀要に論考の形で調査・研究の報告を行ってきた。併せて「4Aプロジェクト」・「大学コンソーシアムあきた共同研究」の成果は、様々な機会に口頭での発表、各所のまちづくりにおける企画立案のプラン策定などにおいて公表してきている。そうした中、今年度は論考にとどまらず、より具体的な実践例において本学の複数の研究者がプラン策定し、具体的に実現させるプロジェクトが多数実施されており、その事例を調査・研究の報告として以下に記載いたします。

なお、本研究の採択条件として示された「これまでの研究結果を基に、秋田県への具体的な提言を行うこと。」については、【秋田県の地域活性化における、観光資源としての芸術（地域民族芸能・アート・デザイン・文学等）の活用並びに、秋田総合ブランドの構築に向けた調査研究】の視点から、今後秋田県が継続して検討・実施することが求められる、大きな考え方、理念を本報告書末尾に報告する。

その上で、これから本研究の成果として、以下に報告する具体的な事例の実践、その経過と効果を検証する形で継続して示す事で、秋田県及び県内各自治体に対する提言とし、各事業について今後報告をさせていただきます。

### I. 由利本荘市における活性化研究と観光のための実践的施設デザイン研究

由利本荘市（小野副市長・秋田県より出向）より複数の施設活性化の企画・デザインサポートの依頼があった。その中で、公共性が高く観光振興・交流人口拡大が期待できる秋田ニューバイオフィーム（秋田県産品ショップ&ダイニング・品川・あきた美彩館を運営）のハーブワールド秋田・20周年リニューアル計画を実践、実現する研究調査を継続中である。島屋純晴教授＜現代美術・アート・立体彫刻系＞、今中隆介教授＜プロダクト・空間デザイン＞に加え、水田准教授＜コミュニケーションデザイン＞、山内准教授＜景観デザイン＞を中心に、これまでの観光施設、美術館、商業施設等の調査研究より、より独自性が高く、秋田県内は勿論、国内でも独自の個性を発揮できうる内容の計画を実現させるものである。

このプランでは、ハーブを含む様々な植生、農産物、鳥海山を含む自然景観を大きな財産として捉え、訪れる様々な年代層の人に、この場所でした体験できないアクティビティを提供することを目指している。中長期（5-10年）のプランであるが、今年度は既存の幼児・児童向けの遊具を全く違う視点からデザインし、視点の移動、行動の変化による自然環境と時間の体験を目指したプランを進めている。

具体的には「スラックライン」・「ハンドバイク」を現地の環境空間に合わせる形でオリジナル仕様のものを制作、導入し、これまでの施設とは全く異なる体験を通して豊かで充実した体験の提供を始めるものである。来年度以降も独自性の強い様々なアクティビティをプラン・実現させながら多くの交流人口を生み出す場所の創造を継続する。併せて、サイン計画等の人工景観においてもまとまったプラン、実施を実現させる。

### II. 由利本荘市における活性化研究・雇用創出と都市ブランドの構築

由利本荘市雇用創造協議会（会長長谷部誠由利本荘市長）と、これまでの研究成果を活用した形で共同研究を策定中である。このままでは衰退するばかりの地域の工芸品の制作・販売の活性化を通して、新たな雇用を創出し、中期的には観光を含む交流人口の拡大を図る。国内においては、製造産業は衰退傾向であるものの、伝統的な手作りによる工芸品を新たなアートと捉え、国内においては他地域との差別化、国外製品との差別化により大きなビジネスモデルとして成功する例が見られる。由利本荘市においても数年前より、工芸品のデザイン指導等を行ってきたが地域内消費レベルに留まっていた。今年度より由利本荘市雇用創造協議会、由利本荘市商工観光部商工振興課も関わる形で新たなプロジェクトがスタートする予定であり、地域の活性化におけるアート・デザインの活用が期待できる。

### Ⅲ. 仙北市における地域活性化策

秋田県観光文化スポーツ部よりの依頼で始まった FIS フリースタイルスキーワールドカップ 2015・ポスター・広報デザイン（継続中）を起点に仙北市のさまざまな活性化策について協働が始まっている。田沢湖高原リフト（田沢湖スキー場）の広報関連（ポスター、リーフレットデザイン）、田沢湖観光協会が中心になって行われる田沢湖高原雪まつりでの活動など、より実践的なアート・デザインの視点を活用した研究活動が地域の活性化策として認知され、より多くの機会が生み出されている。仙北市のこうした取り組みは、本学の学生に加え、多摩美術大学など首都圏の学生が参画することも大きな特徴であり、今後も多方面において多様な研究活動が継続することが期待される。

#### \* 2016 年以降の・調査・研究方針と方向性、継続について

- \* これまでの本研究を踏まえ、今後、秋田県広域の活性化に向け実効的な成果を実現する方向で研究活動を継続することを確認する。
- \* 特にアート、デザイン、文学、観光資源としての地域文化の活用の実現研究の実施。
  - @ 県内地域、仙北市、由利本荘市でのアート・デザイン活用による街の活性化研究と実現
  - @ 自治体に加え、民間企業との協同による地域活性化の研究と実践・実現
  - @ その他、県内地域でのアート・デザイン・文学・観光資源としての地域文化の活用による街の活性化研究と実行
  - @ これまでの先進事例等の研究調査の継続と、調査研究範囲の拡大
- \* なお、今年度の研究者に加え、新たな研究グループを構成し当研究をより具体的な形で継続・発展させる予定である。

【秋田県の地域活性化における、観光資源としての芸術（地域民族芸能・アート・デザイン・文学等）の活用並びに、秋田総合ブランドの構築に向けた調査研究】の成果として、秋田県及び各市町村が継続して検討・実施することが求められる多様な事業に於ける、基本的考え方、理念に関する提言

石川県金沢市の観光戦略については昨年度まで詳細に調査研究を重ね、加えて今年度は石川県広域、富山県高岡市を中心に、観光資源としての芸術（地域民族芸能・アート・デザイン・文学等）の活用並びに、総合ブランドの構築について調査研究を行った。

北陸新幹線の東京～金沢間開業後の本年度は金沢市と白山市の広域連携、さらに県境を接する富山県、岐阜県、福井県との広域連携の在り方、北陸新幹線より能登地区に繋がる、IR いしかわ鉄道、JR 七尾線、のと鉄道の特徴ある取り組み、高岡市を起点に金沢、氷見、城端を広域に結ぶ、あいの風とやま鉄道、JR 氷見線・城端線など、交通2次アクセスにおいて非常に特徴ある取り組みがなされている。

こうした調査研究の成果より、秋田県においても、十分な検討を重ね、問題を解決すべき方向性を示すために考え得る、基本的な指針について以下のように提案したい。

- \* 本当の秋田らしさ、秋田の素晴らしさとはどのような点にあるのか、内側視点ではなく、観光者の視点で十分に検討し、調査することから全てが始まる。
- \* 全国の都道府県を見渡した時、他地域と比べ本当の秋田らしさとは何かを根本から検証する必要がある。
  - : 秋田らしさとは何か、分野を超えた多様で多面的な視点で…地域・季節・自然・食・文化・観光…
  - : 多くの雪国の中で、秋田の雪国としての特徴とは？ 雪景色の街並みや自然景観も含めた検証
  - : 鳥海山、秋田駒などの魅力とは…たとえば朝日連峰、月山、蔵王連峰、岩手山、岩木山、八甲田山系等と比べ、どのような魅力があるのか、田沢湖・十和田湖も然りである
  - : 男鹿半島の本当の魅力、独自の魅力とは…能登半島、津軽半島、下北半島とどの様に差別化できるのか
  - : 秋田県のような温泉は、他県の温泉と比べどこが良いのか、売り出すべき特徴は
  - : 秋田の食について、他県にない独自の魅力、良さはどのような点か…鳥取県・秋田県の鱒の特徴と差異 其の売り方は…、全国の多様な山菜の中で秋田の山菜の特徴的な魅力はどのような点であるか
  - : 秋田の日本酒のブランド化はどのように進めるべきなのか、全国の日本酒産地との差別化の方策は
  - : 秋田県の発酵文化の今後の成長戦略はどの機関がどのように進めるべきなのか…
  - : 角館は小京都ではない、小京都であるならば京都に及ばざる町である。京都、金沢に比べどこが魅力であるのか検証し、その特徴をさらに魅力あるものにするための検討を行うべきである。
- \* 他県、他地域と比べどこが良いのかあらゆる部分について、行政が先頭に立ち、官民一体となって秋田ブランドを構築するための戦略、組織を構成すべきである。そこには緻密な調査・研究と外側（外部の人の）目線が必要であり、ありきたりの「ゆるキャラ」を乱立させても殆ど意味がないことを再度認識すべきである。
- \* 秋田ならではの良い部分、魅力ある事象を外側目線で発見し、そうした事・ものを素材として中期的・長期的視野に立って、さらに育てることが必要である。自然・食・農漁業・観光サポート・スポーツ・温泉など分野を跨いだ連携が非常に重要であり、これまでに調査研究を行ってきた自治体組織等では、そうした点で現状の秋田と大きく異なる点が見られた。観光を含む交流人口の拡大は、様々な要素が浑然一体となって、ひとに【心地よい】場所・時間・環境・人との関係・文化・食などを総合的に提供することが求められる。そのためにどのような組織を構築し、協働し運営し実現するのか。今まさに、文化芸術の視点で、地域を再構成し活性化の方策を構築すべき時であり、【コンソーシアムあきた】の研究成果を活用していただくことを提案する。